

## かいつまんで言いますと・・・

Woodsman Workshop は、「林業で食っていく NPO 法人」を目標にしています。私たちの活動は、従来の造林施業にとどまらず、新しい林業への提案や林業現場における問題点の改善など多岐にわたります。現在日本が抱えている自然環境の問題は、林業だけを取り上げて語ることは出来ず、また、林業を抜きにしても語れないものです。そこで、私たちが目指す活動は、

- 「林業現場からの情報発信及び情報交換」
- 「行政との連携による新しい森林・水縁環境作り」
- 「企業と連携しての環境問題への提案や試行」

など、林業現場との協力を通してこそ実現可能なものです。あくまで林業現場に身を置きながら、既存の枠組み・価値観に捕らわれず、グローバルな視点での活動を行っていきたいと考えています。

## ちなみに、定款の「目的」にはこうあります

森林内での活動（林業・森林レクリエーション・環境教育等）を通して、森林環境を護っていく活動を行うと共に、対象とする不特定多数の個人及び団体等が、様々な自然と出会い、ふれあい、ヒトと自然との関わりを学び、ヒトの営みを含めた「自然・環境」を体感できる機会を提供することを目的とする。

## このような活動を予定しています

### 林業に関する活動

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| ア 造林施業              | イ 林業後継者の指導・育成      |
| ウ 労働環境の改善及びコンサルタント  | エ 間伐材の利用方法の研究      |
| オ 薪炭材の活用（炭焼き等）方法の研究 | カ 森林ボランティア         |
| キ 用具開発              | ク 映像による記録          |
| ケ 情報発信              | コ 樹木の Co2 吸収に関する研究 |

### ワークショップに関する活動

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ア 森林内でのレクリエーション | イ 森林内でのキャンプやスポーツ |
| ウ 環境教育          |                  |

### 広報活動

- ア インターネット及びマスメディアを利用した情報公開と情報交換
- イ 今後の林業への提言

## なぜ NPO（特定非営利活動）法人なのか

NPO 法人とは、「公益・非営利」活動を行い、特定非営利活動促進法が定める一定の要件を満たす団体です。私たちは、特定非営利活動促進法が定める 12 分野のうち、「**環境の保全を図る活動**」「**社会教育の推進を図る活動**」を行います。

山林は私有地であっても環境、地域の安全など公共性が極めて高いものです。造林地の荒廃が進み施業が緊急を要する今、多額の造林補助金を有効に活用し続けるためにも、林業そのものが公益事業として社会に認知される必要があります。また、造林補助金に頼らざるを得ない現状では森林整備に対し広く社会の理解を得る必要があります。NPO 法人の条件である情報公開が不可欠だと思われれます。私たちは利潤の追求よりも「環境の保全」「人材の育成」を優先します。

## 間伐は緊急課題

間伐適期を遅れた造林地は、良質な木材生産を望めないだけでなく水源涵養、土砂流出防備などの機能が低下します。膨大な労力を費やした先人たちの努力を無駄にしないためにも、荒れた造林地の手入れに一刻も早く着手しなければなりません。

## I ターンからの提言

世の中の環境に対する意識の高まりと共に、林業を志す I ターン希望者が増加しています。近年、新規林業就業者の 8 割が I ターンと言われています。労働者の高齢化が懸念される林業において明るい話題ではあるのですが、賃金・住居・労働環境・安全管理・指導育成など、いくつかの問題点が生じてきました。私たちはそれらの問題点を提言し、行政、自治体と共に解決策を考えていきたいと思えます。

## I ターンには I ターン

山仕事のベテラン達は、子供の頃から山に慣れ親しみ、多くが祖父や父親に連れられての山林作業を経験しています。しかし、ほとんどの I ターンは、チェーンソーはもちろぬ、ナタすら持ったことがありません。そのような I ターンに従来通りの「見て覚える」式の指導をしていては、効率が悪い上に危険です。I ターンには I ターンなりの指導が必要と考えます。それにはある程度の技術を習得した I ターンとベテラン技術者のコンビネーションが必要です。I ターンとして現場で戸惑い、苦勞した経験は、I ターンに対するきめ細かい指導に役立つはずです。Woodsman Workshop は I ターン就林者を中心に構成されており、経験を生かした効率よく丁寧な指導を行うための体制づくりを提案します。

## ワークショップ活動

誰もが自然を身近に感じ、自然の醍醐味を味わうことができるような野外活動を計画していきます。リポートレッキングやバックカントリースキーのほかに、林業体験、森林ボランティアリーダー研修、環境教育指導者養成など、私たちがフィールドとする山や川を舞台に様々なプログラムを提案します。

## 情報発信などなど

増加するＩターン就林者どうしの交流はほとんどありません。不安を抱え、未知の世界に飛び込んだ者同士の交流は、精神的なサポートにもつながりません。特に乳幼児がいる場合、外へ出る機会の少ない女性同士の交流は生活の基盤の部分で有意義だと考えます。私たちは、Ｉターンを中心にした交流会を開催していくことで、Ｉターン就林者が生活・仕事に対していっそうの活力を持つ事を目指します。同時にインターネットを利用したネットワークづくりも準備します。さらに林業・自然環境・Ｉターンに関する様々な情報を広く発信していきます。

## まとめ

環境問題は地球規模で考えなくてはならない時代になってきました。林業は木材生産や早期収益製品の生産に加え、地球環境を考慮した新たな収入源・財源の確立を目指し準備を始めなければなりません。それは、行政・研究者・企業だけでなく森林整備の現場からの意見を反映させることで、より現実的なものとなるでしょう。Ｉターンの増加に伴い、これまでにない多様な価値観と経験が林業と山村に流れ込んでいます。「これまで」から学ぶことと「これから」変わるべきことを違えることなく、質の高い仕事を安全に続け、林業の活性化、自然環境の回復、ひいては山村の活性化をも視野に入れた活動が官・学・民、協力の下に展開することを期待し、その一翼を担うべく努力を続けます。